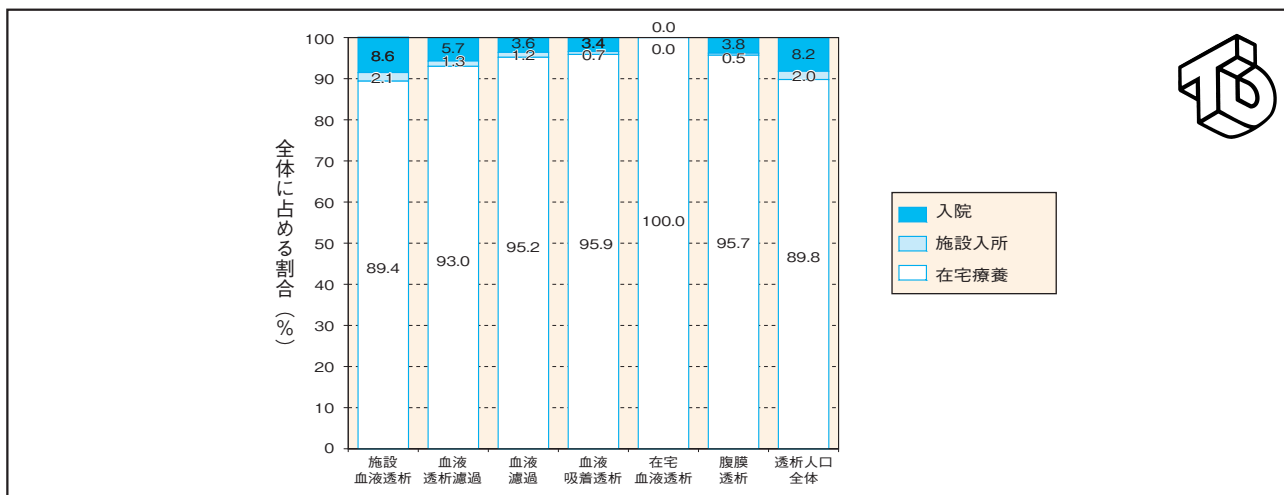


## 5) 生活場所

前回調査<sup>1)</sup>と同様に、各患者の“生活場所”が以下の4つの選択肢を用いて調査された。

- A：患者自宅での在宅療養（外来通院透析、在宅CAPD、在宅血液透析）
- B：施設入所（ケア付き住宅、有料老人ホームや養護老人ホームなどの老人ホーム群、グループホーム、授産施設、救護施設、など）
- C：入院（一般病床の他、老人保健施設、療養病床群、リハビリ病床、精神病床、感染症病床、結核病床、など）
- Z：不明、分類不能

(1) 治療方法と生活場所 (図表33)



生活場所 治療方法別 (透析患者全体)

生活場所	施設血液透析	血液透析濾過	血液濾過	血液吸着透析	在宅血液透析	腹膜透析	合計
在宅療養 (%)	193,774 (89.4)	11,716 (93.0)	80 (95.2)	1,537 (95.9)	188 (100.0)	5,939 (95.7)	213,234 (89.8)
施設入所 (%)	4,463 (2.1)	158 (1.3)	1 (1.2)	11 (0.7)	0	32 (0.5)	4,665 (2.0)
入院 (%)	18,561 (8.6)	724 (5.7)	3 (3.6)	54 (3.4)	0	234 (3.8)	19,576 (8.2)
合計 (%)	216,798 (100.0)	12,598 (100.0)	84 (100.0)	1,602 (100.0)	188 (100.0)	6,205 (100.0)	237,475 (100.0)
不明	1,036	10	0	8	0	98	1,152
記載なし	43,090	1,990	68	262	84	2,892	48,386
総計	260,924	14,598	152	1,872	272	9,195	287,013

患者調査による集計

### 解説

透析人口全体では、在宅療養が89.8%、施設入所が2.0%、そして入院が8.2%であった。これらは前回調査とほぼ同等の値である。前回調査では血液濾過を施行されている患者で入院や施設入所している患者が多く認められたが、今回の調査ではそのような傾向は認められなかった。入院や施設入所が多かったのは施設血液透析患者であった。在宅血液透析では、入院や施設入所している患者は認められなかった。